

日光街道

MAP

栗橋宿

アイコン説明

史跡・旧跡

静御前の墓

関所・渡し

神社

寺院

八福神

静桜

駐車場

トイレ

このマップの詳細は右記のQRコードから閲覧できます。
<http://www.kurihashi-guide.jp/>

経蔵院

病に倒れた静は、経蔵院で養生に努めたが、ここで生涯を閉じた。主人を亡くした侍女・琴柱は剃髪し、西向尼と名乗り、静を弔うために京から静の御持仏を持ち帰って、経蔵院に本尊として祀ったと言われている。

一言明神

侍女の琴柱は亡くなった静の妄念を鎮めるため祠・一言明神を経蔵院内に建て、そこで一生を送りながら、里の人たちに唄や舞を教えたと言われている。静を慕う琴柱の活躍によって、長い間、途切れることなく、栗橋と静の関係が残されている。現在は墓所の隣地にある。

静御前の墓

享和3(1803)年、関東郡代であった中川飛騨守忠英は、栗橋にあった高さ約20m、幹周り約7mほどもある杉の太木に寄り添うように「静女之墳」を建立した。

房川渡跡

「房川渡」は、日光道中栗橋宿・中田宿間の利根川に設けられた渡船場で、江戸時代には重要な交通手段として利用された。その位置は、平成21(2009)年に確定し、河川敷内の跡地には案内板が設置されている。

栗橋関所跡碑

栗橋関所は、明治2(1869)年に廃止されたが、大正13(1924)年に利根川橋の開通を記念して、近隣の人々によって、栗橋関所跡碑が建てられた。

福寿院(福祿寿)

深廣寺(恵比須)

六角名号塔

深廣寺の2代目住職である単信上人によって建立された供養塔で、側面には、南無阿弥陀仏の六字が六面に刻まれている。高さは360cmで、承応3(1654)年から明暦2(1656)年の間に20基が建てられた。その後、明和3(1766)年に9代目住職法信上人が1基建立した。

炮烙地蔵

関所破りを企てた者が、重罪人として火あぶりの刑に処された場所だと言われている。こうした多数の処刑人を憐れみ、火あぶりになぞらえて、その後土地の人が供養のために炮烙地蔵として祀った。

浄信寺(寿老人)

顕正寺(毘沙門天)

吉田家水塚

市内の商家の水塚としては、唯一現存する貴重な文化財で、洪水から人命や財産を守るためにつくられた。大谷石で囲まれた高さ約2mの塚の上に「大蔵」と「向う蔵」の2棟がある。

栗橋文化会館(イリス)

吉田家水塚